本学科の初年次教育プログラムの改定
－１年目の実践報告－

岩　田　京　子　　酒　見　康　廣　　浦　川　安　宏　　大　塚　絵里子

A Revision of First Year Education for the Career Development Division: Practical Report 2014

Kyoko Iwata　　Yasuhiro Sakemi　　Yasuhiro Urakawa　　Eriko Otsuka

（2014年11月28日受理）

１．はじめに

初年次教育は2000年代半ばに注目を集め始め，大学教育において急速に拡大し，わずか10年余りの間に普遍化の段階に入っている（山田2012）。その背景には，日本の大学（783校）・短大（372校）の機能が分化しつつあること，高学力層がいる一方で「ボーダーフリー大学」（葛城2013）や「マージナル大学」（居神2010）に通う学生など学力に課題のある大学生が目立つなど，大学生及び大学の多様化・分化がある。

そのため，全国の大学・短大で均一の初年次教育はあり得ない。初年次教育にリメディアル的要素を加える，リメディアル教育と初年次教育の統合，複数の機能を伴う総合的な初年次教育プログラムと単一の機能を重視する初年次教育といった，さまざまな初年次教育が出現する可能性がある（山田2012）。初年次教育の「百校百様」は学生の実態に即した初年次教育の実践の表れである。

キャリア開発学科（以下，本学科）でも学生の学力低下と多様化，特に就職に関わる社会・経済・雇用情勢の変化を受けて，オリジナルな初年次教育の構築を目指し，平成25年度から初年次教育についてのプロジェクト研究を本格的に開始した（詳しくは岩田他2014）。本研究の目的は，本学科の改定初年次教育１年目の実践（以下，初年次教育（H26）と表記）を記録・報告すると同時に，２年目の実践・研究に向けての課題を明らかにすることである。

本論の構成は次の通りである。本学科の初年次教育（H26）の大きな枠組みである入学前教育（プレカレッジ）と入学後教育（大学基礎演習）について取組内容を明らかにする。次に，育成すべき３つのスキル（基礎学力，スタディ・スキル，スチューデント・スキル）についてそれぞれの視点から振り返りを行う。さらに本年度の初年次教育を受けた学生（平成26年度入学生）のアンケート調査を分析する。最後に，「インストラクショナルデザイン」と「アクティブラーニング」を本学科の初年次教育への新たな視点として検討し，初年次教育の高度化を目指す。

２．キャリア開発学科の初年次教育の枠組み（平成26年度入学生）

本学科では，初年次教育として，入学前に「プレカレッジ」を，入学後には「大学基礎演習」（必修・１単位）として実施している（図表１参照）。

２－１．入学前教育：「プレカレッジ」（平成25年度実施）

次年度の入学予定者を対象として，２度のプレカレッジを実施した。第１回目（平成25年12月21日土曜日）は，推薦入試の合格者を対象として，13:05からと14:50からの90分間にそれぞれ学習目標を設定して実施し，受講生には各高校の制服着用を指示した。

当日のスケジュールは，前半に「大学とは・キャリア開発学科とは」をテーマに一斉講義を行い，大学と高校の違いについて講義形式で授業を進めるとともに，本学科の特色や目標への理解を求めた。また，学園の精神である礼儀の重要性を確認するために「あいさつの仕方」と題して，中村スタイルで示すきれいな「礼」ができるための指導を実施した。

後半は，前半に行った一斉講義をうけて，再び「大学と高校の違いを考えよう！」をテーマにチーム学習を実施した。ここでは1チームを５～６名で構成し，大学と高校の違いを理解すること，自分の考えを積極的に発言

別刷請求先：岩田京子，中村学園大学短期大学部キャリア開発学科，〒814-0198　福岡市城南区別府5-7-1
E-mail：kyoko@nakamura-u.ac.jp

図表１：キャリア開発学科の初年次教育（H26年度入学14Ｈ生）

	プレカレッジ					大学基礎演習			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
行事	キャリアデザインシート送付 推薦入試合格者	第一回プレカレッジ		キャリアデザインシート送付 一般入試合格者	第二回プレカレッジ	宿泊研修 キャリア開発シナリオ帳配布 大学基礎演習スタート プレイスメントテスト	図書館ツアー		大学基礎演習終了 フォローアップ講座
内容		↓高校へ連絡 プレカレッジ不参加者（連絡なし）	第一回入学前課題締切 入学前準備講座	第二・三回入学前課題締切 入学前準備講座	宿泊研修ボランティア募集 第四回入学前課題締切	作文提出 入学前課題未提出者へ提出促す 宿泊研修をボランティア企画・運営	指導主任との個人面談 キャリア開発シナリオ帳の記入 コラム帳・新聞スクラップ帳の作成		
		キャリアデザインシートの記入 コラム帳の作成・新聞スクラップ帳							

できること，仲間と協力してチームに貢献できること，を学習目標として設定した。実践方法としては，最初の15分間にそれぞれのチーム内で自己紹介をし，その後テーマに沿って各自が意見を発表し合い，全体の意見を模造紙にまとめ提出するものであった。スタディ・スキルのうち「聴く力」は前半の一斉講義の段階ではもちろん，チーム学習においても「書く力」「話す力」を含めて欠くべからざる能力となるはずである。

第２回目（平成26年３月５日水曜日）の参加者は，一般入試の合格者を含め，平成26年度の入学予定者全員を対象とし，高等学校の卒業後となるため服装は私服とした。実施時間帯は前回と同様であり，前半では「中村スタイル」の説明指導と，履修に関する予備指導を一斉講義として行った。「中村スタイル」は本学学生の本分であり，学生にとってそれを理解し，いかに実践できるかは入学後の，あるいは卒業後においても本学学生としての基本的姿勢である。具体的には，本学学生として相応しい服装やマナー，またビジネスに必要なスーツの選び方などを指導した。履修に関する予備指導では，シラバスの活用方法を含めて，大学で何を学ぶことができるのかということを理解させるとともに，履修登録の方法も入学前に概要を説明した。

第２回目の後半は，入学後に実施される宿泊研修を中心にチーム学習を行い，チームごとに宿泊研修を企画させた。学生にとっては，チーム内において自分の考えを積極的に発言，仲間と協力し，チームに貢献することが必要となる。これによって，入学後，授業や学校行事に自主的に参画できる態度と能力の養成に繋がることが期待される。なお，このチーム学習後に，宿泊研修のボランティア企画委員を募集し，入学後に宿泊研修の企画・実施を担当させた。

一斉講義やチーム学習と並行して実施した個別学習では，プレカレッジ実施前に入学予定者に配布した「キャリアデザインシート」に記入することによって，大学と高校の違いや，理想の宿泊研修，大学生としてのマナーなどについて各自が考え，大学教育および学生生活へのスムーズな接近を目指した。また，同時に「プレカレッジ一般常識問題」と「入学前準備講座」を実施した。詳細は後述する。

２－２．入学後教育：「大学基礎演習」（平成26年度）

入学後の初年次教育として実施しているのが，必修科目としての「大学基礎演習」である。「短期大学生活の２年間を，充実した意義ある実り多いものにするための基本を学ぶこと[1]」を授業目標としている。

今年度における大学基礎演習の実施内容は次の通りである（図表２）。15回の授業以外の番外編に，大学基礎演習の一環として次の行事を企画し，実施した。

①宿泊研修：４月18～19日と25～26日に実施[2]

「指導主任との触れ合いを持ち，たくさんの友人をつくること。中村学園大学短期大学部の建学の精神の理解につとめること。学校に早く慣れ，大学生活に希望と勇気をもつこと。」をその目標としている[3]。５～６名で班を構成し，研修内容は「クラスの団結力を高めるため学生企画イベントを行う。建学の精神の理解を深めるため学園歌の練習を行う。クラスの親睦を深めるためクラス対抗クイズ大会を行う。」であった[4]。今年度からの試みとして，新２年の在学生を各クラス１名程度配置し参加させた。

②図書館ツアー：４月14～30日，クラスごとに実施

クラスごと指導主任の引率により，図書館ブラウジングルームから各階をめぐる。この企画の目的は，新入生が，図書館の利用方法を熟知し，卒業までの図書館の利用を円滑に行うための指導である。内容としては，入出館時の決まりと方法，書籍の配置，利用マナー，書籍の貸出・返却などについて，図書館の職員により資料やパワーポイントにより説明される。

③個人面談：前学期中，全学生に対し１回以上の面談を実施

各クラスの指導主任によりクラス全学生への個人面談を行っている。学生は，大学基礎演習で使用する「キャリア開発シナリオ帳」，スクラップ帳，コラム帳を持参し，指導主任は，これをチェックしながら各学生の学園生活における現状を把握しアドバイスを行っている。また，指導主任は面談記録を「キャリア情報管理システム（n-cats）」に登録し，指導主任以外の教職員も情報を共有することによって，学科全体による学生サポートを実現している。

３．３スキルの観点から

３－１．基礎学力

本学科の初年次教育において育成すべきスキル（基礎学力，スタディ・スキル，スチューデントスキル）のうち，基礎学力は他２つのスキルのまさしく「土台」となるものとして重視している。基礎学力の弱さは，その他の２スキルの育成を危ういものにし，初年次教育以外の授業や資格取得にも大きく影響してくるからである。基

図表２：平成26年度・大学基礎演

回	実施日	テ　ー　マ	授　業　内　容
1	４月７日	大学基礎演習の目的	科目の実施内容と評価方法など
2	４月14日	キャリア開発学科で何を学ぶか	学科の教育目標・授業の受け方
3	４月21日	資格取得の意義	各種検定試験の位置づけと資格取得
4	４月28日	就職の意味とインターンシップの意義	就職活動への心構え・インターンシップ
5	５月12日	レポートの書き方，論文の書き方	授業で求められるレポート・論文
6	５月19日	コミュニケーションとマナー	学園マナーとクールビズ
7	５月26日	はがきの書き方	出身高校の先生への近況報告
8	６月２日	読書のすすめ	読書を自己実現の伴侶とする
9	６月９日	防犯教育	犯罪から身を守る知恵
10	６月16日	ゼミナールとは何か	各ゼミの内容紹介とプレゼンテーション
11	６月23日	社会で生きるための法律	弁護士による講演（法令順守と防犯意識）
12	６月30日	チーム内でのプレゼンテーション	キャリア開発学科に入学して学んだこと
13	７月７日	広く世界に目を向けて	海外研修ガイダンス
14	７月14日	全体でのプレゼンテーション	6月30日の優秀班によるプレゼンテーション
15	７月28日	期末試験レポート	

(1) 「大学基礎演習」第１回講義（４月７日）より。
(2) 宿泊研修の事前教育は同時に実施した。
(3) 「大学基礎演習」第１回講義（４月７日）より。
(4) 「大学基礎演習」第１回講義（４月７日）より。

礎学力を育成するために，入学前（一般常識問題，入学前準備講座）と入学後（プレイスメントテスト，基礎学力テスト，フォローアップ講座）を実施した。

①入学前：入学前講座と入学前準備講座

平成23年度（12H生対象）より推薦・一般入学試験合格者にはプレカレッジの「基礎学力問題」というプリントを学科で作成・配布し，入学前に提出を求めていた。初年次教育（H26）では入学前課題（学生への配布プリントのタイトルは「一般常識問題」としている）を基礎教育センターに作成を依頼した。採点後，結果は学生へフィードバックしている。

「一般常識問題」は日本語・英語・基礎数学で構成されている。日本語は日常的な漢字，ことわざ，基礎的な読解，英語は英検４級から準２級程度，基礎数学は小学校高学年から高校中級程度までカバーしている。大学生としてごく基本的な学習内容である。正解率は大切だが，問題なのは，辞書等で少し調べれば，あるいは高等学校の先生に質問すればわかるような問題に対しても，まったく解答をせずに白紙のままで提出している学生が散見されたことである。学習方法がわからないのか，ただ単に「わからなければ，そのままでいい」という学習姿勢なのだろうか。

初年次教育（H26）では一般常識問題を４回に分けて提出を求め，ほぼ全員が締切日に提出している。一部，未提出だった学生には入学後に提出を義務づけた。この課題提出は基礎学力の育成だけではなく，締切りを守るという習慣を身につけることにも役にたつ。４回の内１回でも未提出であった学生は，入学後に提出物を出さなかったり，遅れたりする傾向があり，成績も芳しくない。一般常識問題は，学力のボトムアップとともに，入学前から特に注意を要する学生の洗い出しともなる。学力と学習・生活態度の相関が推測できる。

基礎学力のボトムアップとして「入学前準備講座」を合計４回実施した。講師は基礎教育センターにお願いした。国語，数学，英語の３科目で，平成26年１月16日（木）～２月26日（水）に５回の講座である。本学科入学予定者のうち受講者は，第１回目61名，第２回目123名，第３回目91名，第４回目80名，第５回目82名であった。一部遠方に居住する高校生もいるため，全員出席は無理だとしても，もっと多くの入学予定者に出席してもらいたい。それには「プレカレッジ」で入学予定者に重要性を説明するとともに，高等学校の先生方からの積極的な声かけが効果的であろう。この点については，「高大接続教育研究会」あるいは入試課との連携で改善を図りたいと考えている。

②入学後：プレイスメントテスト，基礎学力テスト，フォローアップ講座

・プレイスメントテスト

本学科では平成26年度に初めてプレイスメントテストを実施した。プレイスメントテストの目的は，⑴学生の基礎学力の正確な把握，⑵基礎学力の著しく低い学生へのフォローアップの実施，⑶入学前課題（一般常識問題）の内容の検討に役立つ客観的データを収集することである。プレイスメントテストは日本語，数学，英語の３科目で，新入生オリエンテーションの２日目（平成26年４月４日）に行った。時間は１科目20分と考え合計60分間である。作問と採点については，基礎教育センターからの多大な協力を得た。

最高点と最低点は，日本語（23点～100点），数学（12点～89点），英語（19点～83点）である。今回は第１回目であるため，比較検討ができないが，次年度も実施し，経年での分析を行いたい。また，プレイスメントテストと入学後の成績（GPA）との相関も今後の課題となる。

・基礎学力テスト

入学後の「大学基礎演習」では10分間の基礎学力テストを２回，最終試験日に30分間の基礎学力テストを行った。結果は「大学基礎演習」の成績に反映させている。『一般常識クリア問題集』（成美堂）を試験範囲とし，基礎学力の育成だけではなく，就職活動に必要な学力や知識について，学生に１年生の段階から理解することで，今後の学業への動機づけの向上とすることも目的である。

・フォローアップ講座

入学後のプレイスメントテストの成績不振者には「フォローアップ講座」への出席を義務づけた。対象者は，日本語48名，数学46名，英語50名である。フォローアップ講座は各教科２回ずつ行ったが，回によっては半数以上が欠席をするのが見られた。一部の学生は講座には欠席したものの，個別指導を受けることもあった。今後は，基礎学力育成にフォローアップ講座をどう活かすか，また講座の出席率を上げる方策が課題だと考えられる。

基礎学力は，もちろん一朝一夕でつくものではない。長い積み重ねを必要とし，大学生からのやり直し，育成では遅きに失するかもしれない。仮にそうであったとしても，無対策は学生の大学での学びを貧弱なものにし

てしまう。特に，近年は就職試験での筆記試験やSPI試験に合格できず，面接にすら進めない学生が多く見られる。学生の将来の職業選択の可能性を広げるためにも基礎学力の育成には注力していくべきである。

３－２．スタディ・スキル

平成20年（2008年）に創設された「初年次教育学会」（於玉川大学）の背景には「学生としての素質」の欠如した多くの入学生の存在がある。18歳人口の減少により大学の学生獲得が熾烈になるなか，大学入試は全入時代と揶揄されるほどの広き門となっている。この20年間に大学進学浪人の数は約40万人から７万人に減少し，大学進学は現役入学志向が高まっている。このような状況のもと，高校を卒業して大学に進学はしたけれど，大学の授業についていけない学生や，大学になじめない学生の数は年々増加しているのが現状である。

大学では高等学校以上の学修能力が求められるのは当然であるし，近年は，プレゼンテーションやディベートなど，学生にとってはこれまで以上に多くの表現の機会が存在するとともに，その能力が必要とされている。その能力こそがスタディ・スキルであり，「聴く」「読む」「書く」「話す」をその要素ととらえ，初年次教育においてそれらの能力の養成を図るのが本学科の取組である。

３－２－１．スタディ・スキルへの期待

これまで，大学の「売り」は就職であり，就職率の高さや就職先企業の業種，知名度が，大学の評価につながっている，と言っても過言ではなかった。しかし現状をみると，大学から企業への学生の進路を模索する前に，高校から大学への円滑な移行に対する取組の重要性が明白になっている。入学生に対し，適切な教育と指導を施すことによって，学力的にも人格的にも，真の大学教育の成果を享受できるのである。各大学では，このような観点から新入学生の教育に関する重要性を認識し，初年次教育のプログラムを構築している。

大学や短期大学では卒業論文の課題が与えられることのほか，それぞれの科目でレポートや小論文の提出が求められることは珍しいことではない。そこで必要とされる「書く力」とは，学問的事象を自分自身で理解し，またそこから展開し，自分の意見として学術的な文章の形をとって発表できるものでなければならない。第７回「初年次教育学会」[(5)] においても，スタディ・スキルのうち「書く力」を涵養するための各大学の取組が紹介された。「書く力」を伸ばすためには，教科書はもちろん，多くの専門書を読み，資料を探さなければならない。そこで「読む力」が必要となる。読むという行為の対象は専門書に限らず，雑誌であり新聞であり，文章に触れて，その内容を理解することである。その場合，筆者の主張に同意するかしないかは関係なく，読むということの目的は，読むことによって自らの知識を広げるということである。

また，自らの知識を広げるということに関してもっとも効率の高い行為は先人の経験や考えを聴くということであろう。そのために必要となるのが「聴く力」である。聴くとは「言語・声・音などに対し，聴覚器官が反応を示し，活動する」（広辞苑）行為であり，「広く一般には『聞』を使い，注意深く耳を傾ける場合に『聴』を使う」（同）。したがって，授業で教師の話を聴き，講習会で講師の話を聴くときは，注意深く耳を傾けて聴くことは当然である。

「話す」とは「言葉でつたえて広める。口で述べる。語る。告げる」（同）ことである。自分の考えや意見を他に伝える，表現するという意味では書くことと変わらない。書くことと違うのは，一部の場合を除いて，それは双方向性で行われるということである。発言に対して，質問という形で返ってくる。友達と話す場合，先生と話す場合，就職活動で選考担当者と話す場合がそうである。しかし相手の反応が，必ずしも自分の考えや主張と一致するとは限らない。その場合は，自分の主張を論理的に説明することが必要となる。近年，企業の就職試験の課題として，グループ・ディスカッションが課されることが多い。しかも４年制の学生と合同で実施されると，知識の不足や学問領域の劣等感から気後れし，満足な発言ができなかったという本学科の学生も多い。また，当該企業の新製品を開拓し，その製造と販売を想定して展開するプレゼンテーションを採用試験として課す企業もある。多くはパワーポイントや掲示で自分の考えを説明することになるが，そこで要求されるのはいかに聴き手に自分の意見を伝え納得させることができる「話す力」を発揮できるかということである。

このように，「聴く」「読む」「書く」「話す」の４つの「スタディ・スキル」の重要性を認識し，本学科では大学生が大学生であるための資質と能力の取得のため，入学前の高校生には「プレカレッジ」を，入学生には初年次教育の一環として「大学基礎演習」を実施している。「大学は，学術の中心として，広く知識を授けるとともに，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする（学校教育法第83条）」と，大学の教育目的を示しているように，大学

(5)　日時：2014年９月４日～５日。於：帝塚山大学・奈良東生駒キャンパス。

生は，入学して卒業まで，自らが選択した学問領域を自らの学習と努力によって修得しなければならず，その修得能力こそがスタディ・スキルなのである。

３－２－２．スタディ・スキルの実践

本学科では，初年次教育を「プレカレッジ」と「大学基礎演習」に位置づけ，大学教育における基本的スキルとして捉え，「聴く」「読む」「書く」「話す」能力の養成に努めている。

本学科の初年次教育（H26）の「プレカレッジ」（平成25年度実施）では，前半の90分間に一斉講義，後半の90分間にチーム学習を実施した。

第１回目は，「大学とは・キャリア開発学科とは」をテーマに，第２回目は「中村スタイル」「履修登録」などに関して一斉講義を行った。前述のように「聴く」とは，一般的な「聞く」よりも注意深く耳を傾ける場合をいう。したがって，講義中の行動はまさに騒音や他人の話し声が無意識のうちに耳に入る，聞こえるというのではなく，「聴く力」が要求される。スタディ・スキルとしての「聴く」とは，講義内容や識者の話に傾注し，自らの知識を広げる糧とするのみにとどまらず，自分の論理を展開する際の根拠として活用しなければならない。

後半は，前半の一斉講義をうけて，第１回目は再び「大学と高校の違いを考えよう！」，第２回目は「宿泊研修を企画しよう！」をテーマにグループごとの意見の集約を求めた。１チームを５～６名で構成し，大学と高校の違いが理解できていること，自分の考えを積極的に発言できること，仲間と協力してチームに貢献できること，を学習目標として設定した。実践方法としては，最初の15分間にチーム内での自己紹介が行われ，その後テーマに沿って各自が意見を発表し合い，全体の意見を模造紙にまとめ提出するものであった。スタディ・スキルのうち「聴く力」は前半の一斉講義の段階ではもちろん，チーム学習においても欠くべからざる能力であるし，「話す力」も必要になる。

「大学基礎演習」は月曜日２時限目に実施した。この授業は学生にはスーツ着用で出席することを指示した。８名の専任教員が毎回授業に参加し，講義部分は８名がオムニバス形式で行った（講義内容は図表２を参照）。短期大学生活の２年間を充実し実りあるものにすることを目標としている。

「大学基礎演習」では，毎回授業レポートの提出を義務付けている。その目的は「授業での大事な点を素早く把握できる力を養う」「把握した内容を簡潔な言葉でまとめあげる力を養う」「文章力を養う」「授業でのノート取りの方法を学ぶ」「事業での継続的な集中力を養う」「考察力と調べる力を身に付ける」である[6]。

また，講義では「防犯教育」や「社会のルール」などゲストスピーカーによる講演を実施した。受講する学生にとっては，まず講義を「聴く力」が必要となる。「書く力」とは文章を書く能力のみならず，講師の講話を聴きながら要点をまとめてノートすることも含まれる。毎回授業レポートの提出を義務付けることで「聴く」「書く」能力の向上に寄与するものであると考える。

「読む力」は「読書のすすめ」と題して講義を行い，学生に対して読書のポイントを教示するとともに，図書館と協力して「図書館ツアー」を実施し，図書館の利用方法を説明して書籍との接近を図っている。

このように，本学科では，すべての入学生が有意義な２年間の学生生活を送ることができるよう「プレカレッジ」と「大学基礎演習」を初年次教育の根幹として実施している。

３－３．スチューデント・スキル

スタディ・スキルが主に学修の上での基本的な技能面を指すのに対し，スチューデント・スキルは態度・習慣・マナーなどの学生としての生き方や考え方を含めた資質面を指す。その具体的な項目は，大学や学科によっても異なっており，その大学・学科が何を重要視しているかにもよるものと思われる。ここでは，特に本学の大学生としての心構えと態度，自律的な学生生活のデザイン，主体的学修行動，基本的なコミュニケーション力に焦点を当て，本年度のスチューデント・スキルについての実践結果を報告する。

①本学の大学生としての心構えと態度

キャリア開発学科がどんな学科であるのかはある程度は把握できていると思われる本学科入学予定者あるいは入学者に対して，学科としての教育目標・教育課程，建学の精神については改めて指導を行った。

学修への意識付けとして，入学前教育「第１回プレカレッジ」の「大学とは／キャリア開発学科とは」，「第２回プレカレッジ」の「履修予備指導」，新入生オリエンテーション１日目の「履修指導」，初年次教育「第２回大学基礎演習」の「キャリアか開発学科で何を学ぶか」，キャリアデザインシート「キャリア開発へのウォーミングアップ」の「キャリア開発学科とは」「カリキュラムを確認しよう」を実施した。

建学の精神を含めた自校教育として，「第２回大学基礎演習」の「キャリア開発学科で何を学ぶか」，新入生宿泊研修２日目の「クイズ大会 中村学園をよく

[6] 「大学基礎演習」第１回講義（４月７日）より。

知ろう」（中村ハル先生の生涯のビデオを流してその中からのクイズ出題によるクラス対抗戦）と「学園歌歌合戦」（歌詞を見ずに正確に歌うクラス対抗戦）を実施した。

マナー教育として，各科目の授業開始と終了での挨拶の励行，「第２回プレカレッジ」の「中村スタイル講座」，新入生オリエンテーションのマナー指導，「第６回大学基礎演習」の「コミュニケーションとマナー（学園マナーとクールビズ）」を実施した。

②自律的な学生生活のデザイン

高校と大学との違いの認識のもと，目標を持ち，規則正しい学生生活を送るためには，自己管理が大切である。そのために，「第１回プレカレッジ」の「大学と高校の違いを考えよう」，新入生オリエンテーション２日目の「生活指導」，自分のキャリア情報を自己管理するための「キャリア情報管理システム」についての「第３回大学基礎演習」での説明，警察署員をゲストスピーカーとして招いた「第９回大学基礎演習」の「身を守る知恵（防犯教育）」，「第10回大学基礎演習」の「ゼミナールとは何か」，弁護士をゲストスピーカーとして招いた「第11回大学基礎演習」の「社会で生きるための法律」を行った。

キャリアデザインシート「キャリア開発へのウォーミングアップ」の「生徒と学生の違いを認識しよう」，「５年後の自分をイメージしよう」，「目標となる人を見つけよう」，「頑張ったことの記録を残そう」，「自分の行動を客観視しよう」や，キャリアデザインシート「キャリア開発シナリオ帳（大学基礎演習編）」の「前学期の目標を達成しよう」，「学修結果を記録しよう」も学修させた。また，プレカレッジでのグループ活動や，レクリエーション主体の新入生宿泊研修は，友達作りを主目的としており，友達がいないことの不安感を払拭させることに役立っている。

③主体的学修行動

学生はどうしても受動的な学修になりがちであり，主体的学修がこれからの課題でもあるが，本年度は新たに次の内容を取り入れた。「第12回大学基礎演習」の「チームでのプレゼンテーション」，「第14回大学基礎演習」の「全体でのプレゼンテーション」でいずれもテーマ「本学入学後に学んだことをどう実践しているか」または「本学で学んだ内容を発展して調べたこと」でグループ活動をさせ，視聴者の学生４人ずつを質疑者にした。

④基本的なコミュニケーション

これも初年次教育内での対応は時間的に不充分ではあるが，「第12回大学基礎演習」の「チームでのプレゼンテーション」，「第14回大学基礎演習」の「全体でのプレゼンテーション」での発表や質疑によりコミュニケーションをとることの訓練をさせた。

４．アンケート分析

４－１．プレカレッジのアンケート結果

プレカレッジのアンケートは，第１回プレカレッジ（平成25年12月21日）と第２回プレカレッジ（平成26年３月５日）の終了時にそれぞれに出席者に対してアンケート調査を実施した。第１回プレカレッジでは，出席者152名に対して回答者152名で，回収率は100％であった。第２回プレカレッジでは，出席者162名に対して回答者160名で，回収率は98.8％であった（図表３，図表４）。

「Q1：プレカレッジは役に立ちましたか」の設問に，「とても役に立った」が第１回では115名（76％），第２回では103名（64％）で，「役に立った」が残りを占め，「あまり役に立たなかった」「ほとんど役に立たなかった」と回答したものが第１回・第２回とも皆無であった。受講生全員がプレカレッジの有意義性を認めたといえる。

「Q2：Q1で『とても役に立った』『役に立った』と答えた人は，その理由を以下から選んでください（複数回答可）」の設問に，第１回・第２回とも「高校と大学の違いがわかった」がもっとも多く，次いで第１回では「キャリア開発学科の雰囲気がわかった」「入学前の課題がわかった」「友達ができた」が多く，第２回では「入学後のスケジュールがわかった」「入学後の不安がなくなった」「どんな教科があるのかわかった」が比較的多かった。第２回の方が選択された項目にばらつきが出てきており，項目の内容も入学が近づいてきたことでの受講生の関心の移行をうかがわせる結果であった。

「Q3：「プレカレッジ」の実施時期ついて答えてください」の設問に，第１回・第２回ともほとんどの受講生が「適当であった」と回答している。ごく一部に，高校の行事等と重なることの記述があり，今後このような点には配慮していく必要がある。

今回，第１回・第２回ともグループワークを取り入れ，在学生も各グループに配置したが，第１回では「Q8：『チーム学習』について」の設問に対し，89名（59％）が「積極的に参加できた」と回答し，第２回では「Q9：『宿泊研修を企画しよう（グループ学習）』について」の設問に対し，84名（53％）が「積極的に参加できた」と回答している。

その他の設問項目に対する結果は図表３・４の通りであるが，おおむねプレカレッジについてはよい効果が出ているものと思われる。

図表３：第１回プレカレッジのアンケート集計結果

Q1：「プレカレッジ」は役に立ちましたか

とても役に立った	115
役に立った	37
あまり役に立たなかった	0
ほとんど役に立たなかった	0
（未回答）	0

Q2：Q1 で「とても役に立った」「役に立った」と答えた人は、その理由を以下から選んでください（複数回答可）

高校と大学の違いがわかった	108
キャリア開発学科の雰囲気がわかった	105
入学前の課題がわかった	102
友達ができた	100
入学後のスケジュールがわかった	80
入学後のやる気がでた	46
どんな教科があるのかわかった	45
教職員の顔を覚えることができた	33
通学経路・時間が確認できた	28
入学後の不安がなくなった	21
大学の施設がわかった	16

Q3：「プレカレッジ」の実施時期ついて答えてください

適当であった	143
改善が必要である	8
（未回答）	1

Q4：Q3「適当であった」と答えた人は、その理由を書いてください

- 冬休みだったから（+22）
- これからの３ヵ月、どうすごすかを計画できた（+13）
- 色々と落ち着いた時期だったから（+7）
- 入学前に何をしておくべきか分かった（+6）
- 大学の不安を早めになくすことができたから（+5）
- Golden three month 前で、必要な事を聞くことができたから（+4）
- 早くから大学について理解できるから（+4）
- 学校がない日であったから（+4）
- 受験が終わり、気がゆるんでしまうので、入学前や入学後のことを意識することができ、意欲がわいた（+4）
- 冬休みで、これから時間がたくさんあるため、課題に取り組める（+3）
- 前日が終業式だったので、だらけることなく参加できた（+3）
- この時期は不安がでてくると思うので、この時期はいいと思う（+2）
- 年越し前で、1 月からのやる気をもつことができるから（+2）
- 大学がどんなところかわかったから（+2）
- お昼からだったから遠い人でも来やすかった（+2）
- 友達をつくるのに良い機会だったと思うから（+2）
- そんなに早い時間じゃなかったので、余裕を持っていくことができたから（+2）
- 卒業前に春から同じ大学に通う人と会うことができたから（+2）
- 第 1 回目は適当だと思ったから
- ディスカッションをすることができました！
- たくさんの人と交流できた
- 入学後の雰囲気がわかった
- 大学の授業と同じで確認できた
- 特にすることもないから
- 丁度良かった
- 目標ができた
- 入学前ともう 1 度あることはとてもためになるから
- 説明がわかりやすかった
- 2 回することで確認できるし、安心だから
- 2 学期が終わったから
- スーツの買い方などを教えて下さるので、はやめに買ってしまうことがないから
- 大学に来るまでに時間がかかるので、時間帯がよかった
- 知り合いが増え、キャリアのことを詳しく知ることが出来た
- 特に行事とかなかったから
- 冬休み期間の空いた時間にすることなどが見つけられたから
- とても楽しく話し合いをし、相手のことを少しだけど知る事ができた
- 学校がない 2 月にもしてほしい
- 実際の大学での時間の流れと同じだったから、その感覚を体験できた
- 課題をうまくやる説明は 12 月が一番いいと思ったから
- 冬休みに入ったばかりで、気が抜けないうちに、プレカレッジがあるので良いと思う
- 気を抜いている時だったから
- 合格が決まって、あまりすることがなかったのでやらなきゃいけないことが分かったから
- 大学生になるための準備をしっかりとできるから
- みんなと話せる時間がたくさんあったから
- 90 分授業でも長く感じなかったから
- 適当だったから
- 入学前に慣れることができるから
- 予定が合う日だったため
- よく理解できたから
- 初対面の子と話すことができた
- 時間の動き、流れがスムーズだったと思うから
- 私は実力をはかる為にセンターを受けるので時期的にかぶったりしなくてちょうどよかった
- 平日はバイトがあるから
- 入学前のことがよく分からなかったから
- 終業式が終わった足でそのまま来れたから
- じっくりと考えることができたので良かった
- 集中できる時間でとても良かったです
- 試験前とかじゃなかったから良かっ
- 短期間の間で 2 回あると、顔とか覚えられるから

Q5：Q3「改善が必要である」と答えた人は、その理由を書いてください

- 学校があった。（+3）
- 少し早いと思いました
- 私の学校では、センター試験を全員受けなければならず、その対策授業があっているから
- もう少し友達と話す時間が欲しい
- 終業式と日にちがかぶってしまったからです

Q6：「大学と高校の違い」について

とてもよくわかった	85
よくわかった	65
あまりわからなかった	0
ほとんどわからなかった	0
（未回答）	2

Q7：「宿泊研修」について

とても楽しみである	83
楽しみである	51
今はまだよくわからない	16
あまり行きたいとは思わない	0
（未回答）	2

Q8：「チーム学習」について

積極的に参加することができた	89
とりあえず参加することができた	59
あまりなじむことができなかった	2
まったくなじむことができなかった	0
（未回答）	2

Q9：きょうの「プレカレッジ」に関して、感じたことを自由に書いてください

- いろんな人と話ができてよかった（+20）
- 入学する前から友達ができてよかった（+18）
- 最初、不安でたまらなかったが、少し安心した（+11）
- 楽しかったです（+10）
- グループ学習をすることでふれあいがもててとてもよかった（+9）
- 大学生活がとても楽しみになりました！（+8）
- 先生や先輩方が、とても親切だった（+6）
- キャリア開発がどういう学科なのか知ることができた（+6）
- 大学と高校の違いがよくわかった（+5）
- いい雰囲気だと思った（+5）
- 大学生活について知ることができてよかった（+4）
- 入学前の準備や、必要なことが分かったので良かったです（+4）
- 入学前の 3 ヵ月有効に利用しようと思った！！（+2）
- とても話しやすくて、楽しかった
- とても楽しく、よい機会でした！
- みんな優しい人たちばかりで、とても安心しました。入学が楽しみです！
- 大学生活がとても楽しそうでした
- グループで盛り上がったり、入学するのが楽しみになりました
- 高校と大学はすごく違うけど、きちんと準備していれば、楽しめると思ったので、参加できて良かったです
- グループの人と友達になれたし、大学ではどのようなスキルが必要かなどが知れたので良かったです
- 色々な地域から来ている人と話すことができた。先生達の話も聞けて良かった
- みんなと話せて楽しかった。でも、入学後が余計不安になった
- 丁寧な説明でとてもわかりやすかった。先パイがやさしかった。入学するのが楽しみになった！
- 先輩から話をきくことができてよかった
- 緊張してたけど、いろんな話が聞けてよかった
- 90 分というのは長いんだと実感しました。でも、いろいろな人と話せたので良かったです
- みんな初対面だからあまり話せなかったけど入学して仲良くなれたらいいと思いました
- 在校生の方々の話を聞いたり、おじぎの仕方を習えてよかったです
- 大学内の雰囲気がよく分かった！友達もできたので、楽しかったです！
- 学べた
- 大学でどのようなことをするのかわかった。チームで協力することができた
- みんな可愛かったです。不安な事もあるけど頑張りたいです
- 良かったです
- 先生方の印象もとてもよかった。在学生の人たちも元気がよく、雰囲気がよかった
- 自分の意見を発言できた
- いろんな人の意見をきいてみんなでまとめたりできてよかった
- 少しは仲良くなれたかなって
- 「時間が全てを解決してくれる」と実感しました
- あらためて大学のこととかがわかったので、とても勉強になった
- やはり 90 分というのは長いなと感じた。だが、大学の雰囲気ややるべきことが少しわかることができたのでよかったと思う
- コミュニケーション能力がとても大事だと思った
- 知っている人がいないなかでのプレカレッジだったので緊張しました
- 「プレカレッジ」を通じてグループ学習をする事ができた。とてもいい機会をもらった
- 大学に入ってからは一般常識が必要になるから、新聞やニュースをみるのがとても大切だということが分かった
- いろんな人と意見交換ができて、よかったです
- 入学前に来ることで学校についてわかったのでよかった
- 知らないことについて知ることができました
- 大学に入学する前にするプレカレッジは、とても良かったし、準備に役立ちそう
- 普段考えることのないことを考えることができた
- 友達もでき、大学のことも前より分かるようになったので良かったです
- たくさんの友達とコミュニケーションが取れて、入学するのが楽しみに思えた。入ってから頑張ろうと思えた
- 男がいなかった
- 換気が必要です

（枠内の数字はその項目の選択者数。記述回答文末尾のカッコ内の数値は同様の回答者数。回答者数は 152 名）

図表４：第２回プレカレッジのアンケート集計結果

Q1：第 2 回「プレカレッジ」は役に立ちましたか

とても役に立った	103
役に立った	56
あまり役に立たなかった	0
ほとんど役に立たなかった	0
（未回答）	1

Q2：Q1 で「とても役に立った」「役に立った」と答えた人は、その理由を以下から選んでください（複数回答可）

高校と大学の違いがわかった	120
入学後のスケジュールがわかった	82
入学後の不安がなくなった	74
宿泊研修についてわかった	73
どんな教科があるのかわかった	72
友達ができた	62
キャリア開発学科の雰囲気がわかった	49
入学後が楽しみになった	34
入学後のやる気がでた	19
通学経路・時間が確認できた	16
入学前の課題がわかった	11
大学の施設がわかった	8
教職員の顔を覚えることができた	6
入学後の不安がなくなった	4

Q3：「プレカレッジ」の実施時期ついて答えてください

適当であった	156
改善が必要である	4
（未回答）	0

Q4：Q3「適当であった」と答えた人は、その理由を書いてください

- 卒業後だったから（+11）
- 卒業して落ち着いた時だったから（+11）
- 卒業後すぐだったから（+6）
- スーツを買う前にどんなのを買えばいいか分かったから（+5）
- 入学前でちょうどよかった（+5）
- 卒業後で何も予定がなかった（+4）
- 丁度良い時期と思ったから（+4）
- 入学の約 1 ヵ月前でちょうどいいと思います
- 推薦と一般の人が一緒に集まることができたから（+2）
- 早くもなく、遅くもない時期だと思うから（+1）
- 友だちができた（+1）
- 平日なので、きやすかった（+1）
- 忙しい時期でなかったから
- 今が一番余裕のある時期だから
- 始まる時間が早すぎないから
- お昼からでも行きやすかった
- 学校がなかったから
- これたから
- 宿泊研修や中村スタイルについてよく分かったから
- 受験が終わって一安心できていたから
- スーツの規定はもっと早く話をしてほしかった
- スーツを買う前だったので、中村スタイルの良いスーツを買うことができるから
- スーツの選び方がわかったし、知り合いもできたから
- 高校卒業し、入学直前で実施されたから
- 卒業し、大学へ向けての心の準備をしやすい時期でした
- 卒業式からもう少しだけ時間をあけてほしかったです
- 卒業した後で、スッキリとした気持ちで行けたから
- 卒業したばかりで気が抜けている人とかいると思うから今の時期だと改めて気を引きしめれる
- 卒業して、次の目標を定めるよい時期だと思った
- 卒業してからすぐあったので、スーツとかも余裕をもって買いに行ける
- 卒業した後で、課題ができた
- 卒業して大学での生活や友達づくりを不安に思い始めた頃だったから
- 卒業して平日の予定が空いたから
- 大学のことを考える時だったから
- 短期大学に行くとはっきり自覚できた
- ちょうどバイトがない日だったから
- 通学に時間がかかるから
- 仲良くなることができた
- 遠くから来る人でもお昼からなら来やすいから
- 入学前に一度集まれたから
- 入学前にいろいろなことについて知れたから
- 入学前にお友達と話せて楽しかった
- 入学前にキャリア開発学科について知ることができた
- 入学前にスーツの着こなしなどがわかったから
- 入学前に履修の仕方がわかった！
- 入学までの準備期間が充分にとれるから
- 入学まで不安だから
- 入学まで約 1 ヵ月あるから色々準備ができるから
- 入ってくる人たちの顔を見れたから
- 春休みに入ってすぐだったから
- 引っ越しの忙しい時期じゃなくてよかった
- また新しい人と会えたから
- 用意する時間を考えたら適当です
- 分かりやすかった

Q5：Q3「改善が必要である」と答えた人は、その理由を書いてください

- スーツを早く買いたかった
- もう少し早めの方がスーツを買う余裕がある
- まだ知らない人ばかりなので回数を増やす

Q6：「中村スタイル」について

とてもよくわかった	100
よくわかった	60
あまりわからなかった	0
ほとんどわからなかった	0
（未回答）	0

Q7：「履修予備指導」について

・とてもよくわかった	57
・よくわかった	90
・あまりわからなかった	11
・ほとんどわからなかった	0
（未回答）	2

Q8：Q7 で回答した、「あまりわからなかった」、「ほとんどわからなかった」と答えた人は、わからなかった内容または理由を書いてください

- なんかよくわからなかった
- 説明がはやかった
- 単位など詳しいところが分からなかった
- 大学教養の内容が分からなかった
- 難しかった

Q9：「宿泊研修を企画しよう（グループ学習）」について

積極的に参加することができた	84
とりあえず参加することができた	73
あまりなじむことができなかった	1
まったくなじむことができなかった	0
（未回答）	2

Q10：「宿泊研修ボランティアをしてみたいと思いますか

できればやりたくない	71
指名されればやってもよい	64
ぜひやってみたい	13
絶対やりたくない	3
（未回答）	9

Q11：きょうの「プレカレッジ」に関して、感じたことを自由に書いてください

- 楽しかったです（+19）
- 友達ができて良かった（+5）
- 色んな人と話せて楽しかったです（+3）
- 中村スタイルについてよく分かった（+2）
- 楽しかったし、グループの人と仲良くなれたので良かったです（+2）
- 楽しかったし、友達もできました（+1）
- とても分かりやすく、とても楽しかったです
- 入学が楽しみです（+1）
- グループ学習とか楽しかったです（+1）
- お友達が出来ました（+1）
- みんな良い人でたのしかった！来てよかった（+1）
- 中村のことを知る機会になったのでよかった（+1）
- 色々わかった
- いろんな話ができて良かったと思う
- おもしろかった
- グループ学習たのしかったです。入学後が楽しみです
- グループでの話しあいたのしかったしスーツのえらび方も分かったので良かった
- グループの子とたくさん話せて良かった
- これからの中村のことが分かって良かった
- 宿泊研修がたのしみになりました
- スーツのえらび方がよく分かりました
- スーツのえらび方とか知れたし、友だちも作れたし、良かった！
- スーツの選び方や授業についてわかったのでよかった
- スーツのことや、単位のことが分かって良かったし、グループ活動が楽しかった
- スーツのことをよく知ることができてよかったです
- スーツを安心して買うことができそうなのでよかったです。宿泊研修たのしみです！
- 少し仲良くなれた
- 積極的になりたい
- 前回より、グループ学習でたくさん話すことができた。中村スタイルがよく分かった
- 前回より入学後のことがわかった
- 前回よりもたのしく参加することができた
- 第 1 回よりかは皆と話すことができた
- 大学の忙しさや自主性の大切さを感じた
- 緊張したけど楽しかった
- 楽しかった！入学してからも頑張れる気がする！！
- たのしかった。協力ができた
- 楽しかった。みんなで話していたらたくさん意見出た
- 楽しく色々なことを知れて良かったです
- 楽しく活動ができました
- 楽しく出来た。少し自分でした感があって、グループ制作は少しさみしい気持ちもあった
- ためになった
- 担当してくださった先輩がとても親切でした
- とても楽しそうだった
- 仲良くなれそうだったので安心できて良かったです
- 何人かの人と仲良くなれて良かった
- 入学後のことなどがわかってよかった
- 入学前に少し色んな人と話すことができてよかった
- 入学前に友だちが何人かできたので、プレカレッジに参加してよかった
- 入学前にみんなに会うことができて良かった！
- 話し合いは良かったです
- 前より、4 月の入学が楽しみになった
- みんないい人でとても楽しかった。入学後のことが分かったので安心した
- よかったです
- 履修科目など分からないことが解決した！
- 履修をしっかり考えておく必要があると思った
- 分かりやすく説明があり、交流もできて楽しかった
- 時間が長い
- 90 分になれていないのでつかれた
- 話をしたりするのは難しいなと感じた
- 少し不安がある

（枠内の数字はその項目の選択者数。記述回答文末尾のカッコ内の数値は同様の回答者数。回答者数は 160 名）

４－２．大学基礎演習のアンケート結果

大学基礎演習のアンケート調査は，授業終了時に受講者全員に対して実施した。対象者169名に対し，回答したものは132名で，回答率78.1％であった（図表５）。

各設問項目に対するアンケートの結果は図表５の通りである。大学基礎演習全般を振り返っての設問「Q16：大学基礎演習全体を振り返ってみて，どうでしたか」に対し，「非常にためになった」が106名（80％）で，次いで「多少はためになった」が25名（19％）であった。合わせて99％の学生に，大学基礎演習は効果があったことになる。

とくに各項目に対しての，頭だけでの理解部分あるいは効果なしという受動的な部分と，意識・行動・態度への変化が表れたという能動的な部分とを分けてみてみると，設問「Q1：宿泊研修はどんな効果がありましたか」では，「友人ができた」が117名（89％），「入学時の不安が解消された」が47名（36％），「他に意識や行動に変化が表れた」が２名（２％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が２名（２％）であった。

設問「Q2：図書館利用の仕方（図書館ツアー）はどんな効果がありましたか」では，「これをきっかけに図書館をよく利用するようになった」が90名（68％），「他に意識や行動に変化が表れた」が33名（25％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が37名（28％）であった。

設問「Q3：キャリア開発学科で何を学ぶかの授業は，どんな効果がありましたか」では，「勉学態度に変化が生じた」53名（40％），「他に意識や行動に変化が表れた」が14名（11％）であるのに対し，「なるほどと思って聴いたが，勉学態度に変化はとくになかった」が67名（51％），「ほとんどなかった」が４名（３％）であった。

設問「Q4：資格取得の意義についての授業は，どんな効果がありましたか」では，「検定資格の取得に向けて意欲が沸いてきた」125名（95％），「他に意識や行動に変化が表れた」が15名（11％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が５名（４％）であった。

設問「Q5：就職することの意味とインターンシップの意義の授業は，どんな効果がありましたか」では，「とても興味を持った。できれば参加したいと思った」118名（89％），「他に意識や行動に変化が表れた」が19名（14％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が６名（５％）であった。

設問「Q6：レポートの書き方，論文の書き方，思考のまとめ方（マインドマップ）の授業は，どんな効果がありましたか」では，「他に意識や行動に変化が表れた」が76名（58％）であるのに対し，「ためになると思ったが，具体的行動とは結びついていない」が51名（39％），「ほとんどなかった」が５名（４％）であった。設問「Q7：コミュニケーションとマナー（学園マナーとクールビズ）の授業は，どんな効果がありましたか」では，「いろいろと参考になった」が78名（59％）であるのに対し，「TPO に合わせたファッションやメイクについて考えるようになった」が72名（55％），「他に意識や行動に変化が表れた」が７名（５％）であるのに対し，「ほとんどためにならなかった」が１名（１％）であった。

設問「Q8：葉書の書き方の授業は，どんな効果がありましたか」では，「はがきを書く訓練になった」が109名（83％），「高校の恩師と交流を持つことができた」が28名（21％），「他に意識や行動に変化が表れた」が５名（４％）であるのに対し，「ほとんどためにならなかった」が１名（１％）であった。

設問「Q9：読書のすすめの授業は，どんな効果がありましたか」では，「他に意識や行動に変化が表れた」が13名（10％），「勉学態度に変化が生じた」が８名（６％）であるのに対し，「なるほどと思って聴いたが，勉学態度に変化はとくになかった」が83名（63％），「ほとんどなかった」が27名（20％）であった。

設問「Q10：警察署職員による防犯教育は，どんな効果がありましたか」では，「いろいろと参考になった」が123名（93％），「他に意識や行動に変化が表れた」が15名（11％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が２名（２％）であった。

設問「Q11：ゼミナールとは何か（ゼミナールガイダンス）の授業は，どんな効果がありましたか」では，「ゼミを決めるときの参考になった」が129名（98％），「他に意識や行動に変化が表れた」が７名（５％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が０名（０％）であった。

設問「Q12：弁護士による社会に潜む危険性と社会で生きるための法律の授業は，どんな効果がありましたか」では，「いろいろと参考になった」が124名（94％），「他に意識や行動に変化が表れた」が６名（５％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が０名（０％）であった。

設問「Q13：広く世界に目を向けて（海外研修ガイダンス）の授業は，どんな効果がありましたか」では，「とても興味を持った。できれば参加したいと思った」が116名（88％），「他に意識や行動に変化が表れた」が11名（８％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が８名（６％）であった。

設問「Q14：チーム内でのプレゼンテーション，全体でのプレゼンテーションの授業は，どんな効果が

図表５：大学基礎演習のアンケート集計結果

Q1. 宿泊研修は、どんな効果がありましたか

友人ができた	117
入学時の不不安が解消された	47
他に意識や行動に変化が表れた	2
ほとんどなかった	2
（未回答）	2

Q2. 図書館利用の仕方（図書館ツアー）は、どんな効果がありましたか

これをきっかけに図書館をよく利用するようになった	90
ほとんどなかった	37
他に意識や行動に変化が表れた	33
（未回答）	0

Q3. キャリア開発学科で何を学ぶかの授業は、どんな効果がありましたか

なるほどと思って聴いたが、勉学態度に変化はとくになかった	67
勉学態度に変化が生じた	53
他に意識や行動に変化が表れた	14
ほとんどなかった	4
（未回答）	0

Q4. 資格取得の意義についての授業は、どんな効果がありましたか

検定資格の取得に向けて意欲が沸いてきた	125
他に意識や行動に変化が表れた	15
ほとんどなかった	5
（未回答）	0

Q5. 就職することの意味とインターンシップの意義の授業は、どんな効果がありましたか

とても興味を持った。できれば参加したいと思った	118
他に意識や行動に変化が表れた	19
ほとんどなかった	6
（未回答）	1

Q6. レポートの書き方、論文の書き方、思考のまとめ方（マインドマップ）の授業は、どんな効果がありましたか

他に意識や行動に変化が表れた	76
ためになると思ったが、具体的行動とは結びついていない	51
ほとんどなかった	5
（未回答）	1

Q7. コミュニケーションとマナー（学園マナーとクールビズ）の授業は、どんな効果があり

いろいろと参考になった	78
TPO に合わせたファッションやメイクについて考えるようになった	72
他に意識や行動に変化が表れた	7
ほとんどためにならなかった	1
（未回答）	0

Q8. 葉書の書き方の授業は、どんな効果がありましたか

はがきを書く訓練になった	109
高校の恩師と交流を持つことができた	28
ほとんどためにならなかった	6
他に意識や行動に変化が表れた	5
（未回答）	0

Q9. 読書のすすめの授業は、どんな効果がありましたか

なるほどと思って聴いたが、勉学態度に変化はとくになかった	83
ほとんどなかった	27
他に意識や行動に変化が表れた	13
勉学態度に変化が生じた	8
（未回答）	3

Q10. 警察署職員による防犯教育は、どんな効果がありましたか

いろいろと参考になった	123
他に意識や行動に変化が表れた	15
ほとんどなかった	2
（未回答）	2

Q11. ゼミナールとは何か（ゼミナールガイダンス）の授業は、どんな効果がありましたか

ゼミを決めるときの参考になった	129
他に意識や行動に変化が表れた	7
ほとんどなかった	0
（未回答）	2

Q12. 弁護士による社会に潜む危険性と社会で生きるための法律の授業は、どんな効果があり

いろいろと参考になった	124
他に意識や行動に変化が表れた	6
ほとんどなかった	4
（未回答）	3

Q13. 広く世界に目を向けて（海外研修ガイダンス）の授業は、どんな効果がありましたか

とても興味を持った。できれば参加したいと思った	116
他に意識や行動に変化が表れた	11
ほとんどなかった	8
（未回答）	3

Q14. チーム内でのプレゼンテーション、全体でのプレゼンテーションの授業は、どんな効果がありましたか

積極的に参加できた	110
いろいろと学ぶものがあった	23
ほとんどなかった	5
他に意識や行動に変化が表れた	2
（未回答）	2

Q15. 毎回のレポート提出は、どんな効果がありましたか（カッコ内は丸で囲む）

書く力が（少しは・ある程度・かなり）付いてきた	75
（少しは）	34
（ある程度）	28
（かなり）	13
他の授業でもポイントを要領よくノートに取れるようになった	61
他の授業でも真剣に話を聴くようになった	42
他に意識や行動に変化が表れた	5
ほとんどなかった	3
（未回答）	2

Q16. 大学基礎演習全体を振り返ってみて、どうでしたか

非常にためになった	105
多少はためになった	25
この授業へ取り入れて欲しかったことや、改善すべきと思ったことなどがある	4
あまりためにはならなかった	0
（未回答）	2

（枠内の数字はその項目を選択した人数。回答者数 132 名。）

ありましたか」では，「積極的に参加できた」が110名（46％），「いろいろと学ぶものがあった」が23名（17％），「他に意識や行動に変化が表れた」が２名（２％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が５名（４％）であった。

設問「Q15：毎回のレポート提出は，どんな効果がありましたか」では，「書く力が付いてきた」が75名（57％），「他の授業でもポイントを要領よくノートに取れるようになった」が61名（46％），「他の授業でも真剣に話を聴くようになった」が42名（32％），「他に意識や行動に変化が表れた」が５名（４％）であるのに対し，「ほとんどなかった」が３名（２％）であった。

全般的に見ると，授業の効果があったといえる。大学基礎演習については本学科として毎年マイナーチェンジを繰り返しながら，様々な工夫をしているつもりであるが，学生にとってはまだまだ表面的な理解に終わっているのではないかという危惧を禁じえない。

５．今後の実践に向けて

５－１．インストラクショナルデザイン

本学科は初年次教育を15年前のあまり事例の見られない頃から始めている。初年次教育が広がりを見せたのが2000年代の半ばなので，本学科は比較的早くから初年次教育に着手したということになる。本学科が早期に初年次教育を開始したため，あるいは初年次教育には定型がないがために，本学科の初年次教育をこれまで発展させてきたのは，学科の教員たちの「熱き思考錯誤」であったと言えよう。それは教員の教育現場で積み重ねられた「勘と経験」に裏打ちされて，一定の成果をもたらしてきた。しかし，今後の初年次教育改定（再構築）に向けては，新たな理論を借りながら，より本学科の学生に適する，効果的な初年次教育を検討することも必要である。その検討の視点がインストラクショナルデザイン（以下，ID）である。

ID の最も基本的なモデルは ADDIE モデルと呼ばれている（ガニェ他2007）。それは Analyze（分析），Design（設計），Develop（開発），Implement（実施），Evaluate（評価）の頭文字をとってものである（図表６）。以下，ADDIE の５段階を視点として初年次教育（H27）へ向けての課題を整理する。

①分析

学生のニーズを考えてきたか。学生が何をできるようになるかを具体化してきたのか。そのなかでどのような動機づけが効果的なのか。学生のアンケートを詳細に分析することも必要だろう。また，高大接続教育研究会などを通して，高等学校の先生から教育のニーズを探り出すことも必要である。

②設計

欲張りすぎのコースデザインになっていなかったか。２年間という短い期間での初年次教育は時間的制約を受けやすいため，詰め込んでしまいがちになるが，それは果たして良いのか。教師の自己満足に終わってないだろうか。ニーズ分析とともに，目的を明確にした上での初年次教育の計画が必要である。

③開発

初年次教育の教材として，「キャリアデザインシート」の改定，また基礎学力育成に向けては，e-learning の効果的な活用を考えるべきだろう。

④実施

実施方法については，アクティブラーニングを積極的に取り入れることを検討する（詳細は５－２．に記述）。

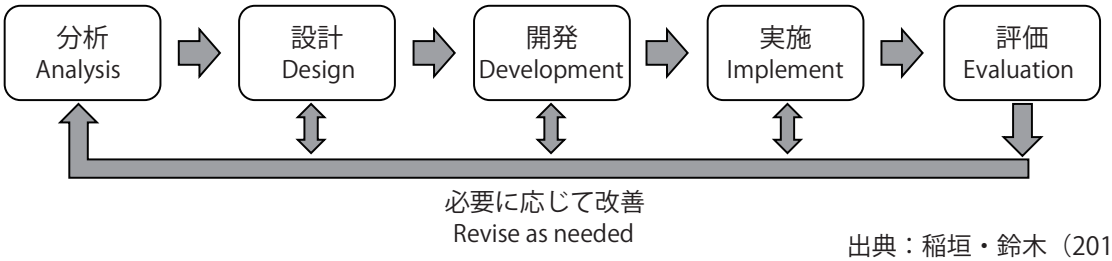
⑤評価

学習者の「評価」（アンケート）は行っているが，学生の行動の変容などアンケートには見られない評価基準を作成できないか。また，本学科の初年次教育そのものを評価する枠組みを作っていないのも今後の課題となる。

５－２．アクティブラーニング

少子化による18歳人口減少とともに大学全入時代を迎え，さらに高等教育機関への進学率50％を超えるい

図表６：ADDIE モデル



出典：稲垣・鈴木（2011）

わゆる大学のユニバーサル化の状態であるのが現在である。各大学・短期大学では多様な学生に対応する必要性に迫られ，質的転換をすべく種々の模索をしているところである。中央教育審議会の平成23年の答申[7]によるキャリア教育，平成24年の答申[8]によるアクティブラーニングはその方向性によるものであると考えてよい。短期大学の場合は高校生の短期大学離れ現象もあり，さらに厳しい状況にある。短期大学と大学との差別化，短期大学と専門学校との差別化といった，大学とはまた異なった視点からの教育の質的転換が求められている。

アクティブラーニングとは学生の能動的学修を指すが，その具体的内容については，捉え方がまちまちでまだ漠然としているようである。溝上（2007）は，アクティブラーニングを「学生の自らの思考を促す能動的な学習」として広義に定義しており，講義型授業や演習型授業の中で，担当者がアクティブラーニングと意識しないままで，すでにアクティブラーニングを実践している事例が数多くあることを指摘している。河合塾（2011）は，アクティブラーニングを，知識の定着を目的とした「一般的アクティブラーニング」と知識を活用し課題解決を目的とした「高次のアクティブラーニング」に分類している。中教審の答申[9]では，平成24年度の答申でアクティブラーニングを「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり，学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって，認知的，倫理的，社会的能力，教養，知識，経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習，問題解決学習，体験学習，調査学習等が含まれるが，教室内でのグループ・ディスカッション，ディベート，グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と定義している。アクティブラーニングの手法としては，小テスト，クリッカー，ミニッツペーパー，グループワーク，プレゼンテーション，PBL（Project Based Learning），ものづくり，実験，フィールドワークなど様々なものが挙げられる。

本学科の導入教育で取り入れているアクティブラーニングは以下の通りである。本年度（平成26年度）は高校生によるグループワークとして，第１回プレカレッジで「大学と高校の違いを考えよう」，第２回プレカレッジで「宿泊研修を企画しよう」を取り入れた。６人で１グループを構成しているが，昨年度よりも時間帯を増やしており，さらに在学生をアドバイザー役としてほぼ各グループに配置した。在学生がいることは，高校生にはかなりやりやすくなったのではないかと思われる。アドバイザー役の在学生は，自分からグループ内に入っていくタイプの者と，高校生からの質問があったときなどに対応する待ち受けのタイプの者がいたが，在学生にとってもこれはよい学修機会となっているようである。

大学基礎演習番外編の宿泊研修でも，本年度は在学生数名をリーダー役として同行させた。宿泊研修でのクラス対抗での，ドッチビーや大綱引きのスポーツ大会，学園祖の生涯を紹介したビデオ鑑賞後のクイズ大会，学園歌合戦，さらには宿泊部屋での学生同士の交流は学生の能動性を刺激している。大学基礎演習では，毎回レポートを課し翌週に回収して採点した結果を返却している。レポートの内容は，講義の要旨，考察（気づき，感想，質問など），本字のテーマに関連して調べたことで，これらをA4判の用紙１枚にまとめるものである。これの一番の目的は，授業内容を聴き取る力，まとめあげる力，メモを取る力，ノートを作成する力を養うものである。大学基礎演習での「はがきの書き方」では，出身高校の教員宛に近況を報告するはがきを書かせている。プレカレッジや大学基礎演習でのスクラップ帳の作成の指導，大学基礎演習での月一冊の読書の奨励を進めている。

また，プレカレッジおよび大学基礎演習も含めて本学科全体でマナー教育には力を入れている。マナー・習慣は日頃から身体で覚えなければ身につかないという考えによる。週１回のスーツの日，授業開始時と終了時での挨拶などを実践している。これは「形は心の現れ」という本学の建学の精神にも基づくものである。いずれも河合塾（2011）のいう一般的アクティブラーニングに相当するものといえるだろう。

第１回プレカレッジのアクティブラーニングに関係する部分のアンケート結果では，設問「Q8：チーム学習について」では，「積極的に参加することができた」が89名（59％）で，次いで「とりあえず参加することができた」が59名（39％）であった。第２回プレカレッジのアクティブラーニングに関係する部分のアンケート結果では，設問「Q9：宿泊研修を企画しよう（グループ学習）について」では，「積極的に参加することができた」が84名（53％）で，次いで「とりあえず参加することができた」が73名（46％）であった。また，大学基礎演習のアンケート結果において，Q3やQ9では学生は「なるほどと思って聴いたが，勉学態度に変化はとくになかった」への回答が多かった。これは学生がその

[7] 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）
[8] 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～」（答申）
[9] 同上

意義については頭では理解したが，それが能動的な結果としてはあまり表れていないという結果を表している。これは，受動的，座学的な学修の限界を示しているともいえる。学生には先に行動や実践をさせながら，体験や感覚とともにその意義を学修させる方法を随所で取り入れていくことへの転換の必要性をデータとしても示している。ここにアクティブラーニングを意識的に取り入れることの意義がある。マナー教育は，この方向での学修を初めから目指したものといえる。今後，初年次教育だけに限らず，それぞれの科目内で一般的アクティブラーニングあるいは高次のアクティブラーニングを何らかの形で取り入れていくべきであろう。

プレカレッジでの90分という受講時間は，座学だけでは高校生にとって集中力を欠いてくるようである。その意味でもアクティブラーニングを取り入れ，それをメインにすることには意義がある。ただ，「プレカレッジ」や「大学基礎演習」ではやりたい内容が多く，今の時間数ではどうしても不足を感じてくる。それを補うために，導入教育用の科目をさらに新設することも，今後の検討課題の一つである。入学前の集中講座，さらに「大学基礎演習」で現に番外編となっている宿泊研修や図書館ツアーなどともまとめて，アクティブラーニングをメインにしながら単位認定できる時間数を確保するものである。場合によっては，高大接続教育研究会などを通じた高校教員との連携による高校教員の意向を取り入れることも検討していくべきであろう。

6．おわりに

本稿では，「初年次教育（H26）」を振り返りながら，次年度に向けての課題を整理した。本学科の初年次教育は大きな枠組み「プレカレッジ」と「大学基礎演習」，そしてそのなかで育成すべき３スキル（スタディ・スキル，スチューデント・スキル，基礎学力），その育成の基礎的資料となるプレイスメントテスト，基礎学力育成の入学前準備講座やフォローアップ講座で構成されている。学生はこの初年次教育期間に，通常の教育課程の授業に参加し，サポート講座（秘書技能検定２級講座）をこなし，サークルや学外活動にも参加している。そのような学生の状況を考えると，初年次教育がいささか「詰め込み過ぎ」の感がないわけではない。

学生の中には，多くの授業や課題を軽々と飛び越える者もいれば，飛び越えるには多くの労力や支援が必要な学生もいる。学生の全体的レベルアップは重要だが，同時に，学生ひとりひとりの能力や状況に目配りすることがさらに必要であろう。「学生志向」を貫く初年次教育を実践していくことを肝に銘じなければならない。

【引用・参考文献】

居神浩（2010）「ノンエリート大学生に伝えるべきこと－『マージナル大学』の社会的意義」『日本労働研究雑誌』No.602 27-38

岩田京子・酒見康廣・浦川安宏・大塚絵里子（2014）「キャリア開発学科の初年次教育に関する基礎的研究－『スタディ・スキル』『スチューデント・スキル』『基礎学力』を視点として－」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第46号 189-198

稲垣忠・鈴木克明編著（2011）『教師のためのインストラクショナルデザイン 授業設計マニュアル』北大路書房

葛城浩一（2013）「授業中の逸脱行動に対する大学の対応－ボーダーフリー大学に着目して－」『香川大学教育研究』第10号 51-61

河合塾（2011）『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか』東進堂

ガニェ，R.M.・ウェイジャー，W.W.・ゴラス，K.C・ケラー，J.M. 鈴木克明・岩崎信監訳（2007）『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房

鈴木克明（2002）『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房

溝上慎一（2007）「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」『名古屋高等教育研究』第７号　269-287

山田礼子（2012）「大学の機能分化と初年次教育－新入生像をてがかりに」『日本労働研究雑誌』No.629 31-43

【謝　　辞】

本学科の初年次教育（H26）の実施にあたり，基礎教育センターの先生方には，「入学前準備講座」の実施，「プレイスメントテスト」作成・採点・分析，「フォローアップ講座」の実施など多大なご尽力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。